

ひばらこうじんかぐら 比婆荒神神楽の社会史

歴史のなかの神楽太夫

鈴木昂太 著
▼A5判・上製カバー！496頁・定価七、七〇〇円

2025年3月刊行



広島県庄原市に伝わる比婆荒神神楽が三五〇年以上継続されてきた、伝承の原動力とは何か。神楽太夫の創造性に着目した注目の社会史。

【目次】

まえがき

序論

第一章 研究史の整理と本論文の視角

第二章 比婆荒神神楽の概要

第一部 神楽を伝承する太夫の社会的立場と宗教活動

第一章 中近世における社人の組織と階層

第二章 近世における社人の宗教活動とその権利

第三章 明治初期の宗教政策と備北地方の神職の動向

第四章 備北地方における太夫の現在

第二部 太夫が執行する儀礼の変遷

第一章 朽木家文書に見る太夫の宗教活動の変遷

第二章 梓弓による口寄せ儀礼
——「六道十三佛之カン文」の位置

第三章 広島県庄原市西城町(旧奴可郡)の神弓祭

第三部 比婆荒神神楽の近現代史

第一章 広島県の神楽が経験した近代
——政治・民俗学・国家神道

第二章 神楽と国譲り神話
——近代における芸能の創造

第三章 比婆荒神神楽の近代
——新たな執行体制の成立と稼ぎとしての神楽

第四章 近現代における名の変容と神楽の継承

第五章 比婆荒神神楽の現代的展開

結論

参考文献／初出一覧

あとがき

◆著者略歴

鈴木昂太(すずき こうた)

一九八八年 静岡県生まれ。専門は、民俗学・芸能史研究。博士(文学)(二〇二〇年総合研究大学院大学)。東京文化財研究所無形文化遺産部 研究補佐員を経て、現在は、国立民族学博物館 人類文明誌研究部助教。
主な論文に、「民俗芸能研究を広げるための一試論：芸北神楽のGHQ神話の検討を通して」、『民俗芸能研究』67号、二〇一九年、「近代における『法印』の誕生：大乘神楽を伝承する仕組み」、『山岳修験』68号、二〇二二年)など。

注文書	
(書店印)	
様冊	ご担当
法藏館	鈴木昂太著
定価七、七〇〇円	比婆荒神神楽の社会史
住所	歴史のなかの神楽太夫
お電話	ISBN: 978-4-8318-6292-1 C3039
お名前	

ご注文はFAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

社会科学